



地場産業の 景気 天気図



晴れ



晴れ一部曇り



曇り





曇り一部雨







雨







好調



不調





業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海面養殖	 ▶ 	マダイの浜値は510円/kg前後と記録的低迷が続いている。在池尾数の減少で一時は値上げの声があったものの、年明けの緊急事態宣言によって需要が落ち込んでおり、値上げは難しい状況である。ハマチの浜値は630円/kg前後。下げ止まりの兆しが見られるが、マダイと同じく外食産業の需要が依然として弱く、低迷を脱するには時間を要する。





業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
水産加工品	 ▶ 	削り節の原材料であるカツオは、バンコク相場(国際相場)では1,250ドル/トン前後と先月から下落。水揚げが良好な一方、缶詰メーカーからの引き合いは弱い状況が続いている。国内相場も110円/kg前後と、水揚げが堅調なこともあり安値圏で推移している。蒲鉾は巣ごもり需要に加え、おでん商材として引き合いが強く、量販店では12月の売上が前年比で1割前後伸びるなど好調を維持している。



業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル	 ▶ 	1月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は3,358梱で、前年同月比19.5%減となった。「Go Toトラベル事業」の一時停止で、ホテル・旅館向けのタオルや、土産物のタオル需要が減少し、生産調整を行うメーカーがみられる。タオル生産量の減少に伴い、染色業者の加工量も前年を下回って推移している。



業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況	
製紙	印刷・情報用紙 新聞用紙	 ▶ 	12月の国内出荷は、印刷・情報用紙は前年同月比9.4%減と17ヵ月連続の減少。学習関連出版物やコミックなど非塗工紙の一部は堅調だが、各種イベントの開催制限などで商業印刷物は不振。情報用紙が同5.9%減、新聞用紙で同9.2%と、減少幅は前月より縮小したものの需要減少が続いている。
	衛生用紙	 ▶ 	12月の国内出荷は前年同月比7.5%増で2ヵ月連続の増加。トイレ紙が同5.2%増、ティッシュ同7.7%増と増加幅が拡大した。タオル用紙は、新型コロナの感染再拡大による衛生意識の高まりが継続しており、同19.5%の増加となった。
	紙加工など	 ▶ 	段ボール原紙の12月の国内出荷は、前年同月比1.1%増で15ヵ月ぶりの増加。青果物や通販の好調な動きで、消費増税後で初めてプラスとなった。白板紙は、「Go Toトラベル事業」の一時停止で先行きの不透明感が強まったことが影響し、同5.8%減となった。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
一般機械 金属製品 鉄鋼	 ▶ 	建設機械は中国市場が好調だが、国内市場の回復が鈍い。クレーン関連は、発電所向けアンローダーや大規模工場の天井クレーンに新規受注の動きがみられ、プラント関連も定修工事などが安定している。しかし、大手企業で設備投資意欲の減退や年度替わりの端境期要因などで、全体的には夏場まで厳しい受注環境が予想される。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況	
造船	外航	 ▶ 	日本船舶輸出組合によると、1月の輸出船契約実績は31隻・121万総トンとなった。コンテナ船のまとまった受注により、前年同月を大きく上回った。昨年4～12月に、同組合加盟造船会社の海外船主からの受注は7隻にとどまり、前年同期の20隻を大きく下回っている。中国・韓国との船価差もあって、国内造船所の受注環境は厳しさを増している。
	内航	 ▶ 	貨物船・タンカーともに受注環境は厳しい状況が続いている。内航組合総連合会が発表した内航船舶建造アンケートでは、2020年度の建造量(起工ベース)は58隻(商談中含む)で、コロナ前の100隻超の水準を大きく下回っている。タンカーは足元の荷動きが活発化しているが、船主の発注意欲は低い。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況	
海運	外航	 ▶ 	BDI(バルチック海運指数)は1,300台で推移。中国の旧正月前で荷動きが鈍化し、バルカーは大型のケーブサイズを中心に市況が軟化している。コンテナは、世界的に輸送量が増加しているほか、コンテナ不足や荷役停滞もあり、市況は急騰している。LNGは寒波による発電燃料需要が増し、スポット備船料が高止まりしている。
	内航	 ▶ 	内航組合総連合会が発表した輸送動向調査によると、2020年12月の貨物船の輸送量は、前年同月比1.4%増、タンカーは同7.8%減となった。タンカーは、西日本を中心に火力発電所向けの黒油タンカーの船腹需給がひっ迫している。新型コロナウイルスの影響でLNGの輸入が不安定で、当面はこの状況が続くとみられる。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
建設	 ▶ 	1月の県内の公共工事請負金額は、前年同月比42.8%減の57億円であった。発注者別では、「国」「県」「市町」などで減少した。12月の住宅着工戸数は前年を17.3%上回る856戸となった。利用関係別では、「持家」と「給与住宅」が前年を上回った。給与住宅は新居浜の単身者用社員寮の新設で大幅に増加した。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
観光	 ▶ 	12月の道後温泉旅館宿泊客数は前年同月比8.9%減の53,117人と2ヵ月ぶりに前年を下回った。12月の県内主要観光施設入込み客数は、中予(前年同月比25.9%減)、東予(同34.2%減)、南予(同13.7%減)とすべての地域で前年を下回った。新型コロナウイルス感染の再拡大や「Go Toトラベル事業」の一時停止などの影響を受け、11月まで縮小傾向にあった下げ幅は、再び拡大方向に転じた。